



# サッカー中心として多目的利用も

## 旧鶴岡病院跡地人工芝サッカー場整備



第1回鶴岡市病院跡地活用検討委員会（委員長・阿部真一副市長）が12日行われた。

皆川市長が「解体後の跡地活用については、人工芝グラウンドの整備を計画しているが、サッカー競技を中心として、共生社会の下で多くの市民から多目的に利用できる施設の検討と、市民参画のもと整備基本計画を策定する目的で、検討

委員会を開催する」旨が話されました。旧鶴岡病院解体と跡地活用について、解体費約13億円、人工芝サッカー場整備費約10億円の総額23億円を見込み、県は解体費の2分の1の6・5億円を負担し、市は過疎債を活用して4・77億円と予定しています。

整備概要(案)では、病棟敷地と他の敷地に高低差があることや、アクセス道路の整備が必要であること等が説明されました。

委員から様々な意見

委員から、「現地を見た上で検討したい」、「金峰少年自然の家と併せた活用を検討する

べきではないか」、「障がい者も含めスポーツや観覧が出来る施設にしてほしい」、「子ども達も遊べる遊具の設置や運動会やレクリエーション使用等、多目的にしてほしい」、「水場やトイレ等充実し防災対策としても考えるべきではないか」、「サッカー場を本来の目的とし、例外の目的の検討は分けて行うべきではないか」等の意見がありました。

市当局は県と調整後、現地見学と子ども達に係わる関係機関等に聞き取りを行うことを確認しました。

同委員会は年4回程度を想定し、次回以降を7月、10月、2月を予定している旨が話さ

# 憲法・平和、新型コロナ対策



△1(月)メダマ、△7(日)第一学区囲碁クラブ総会、△同日、小中一貫校考える会、△同日、市議団と街宣、△同日、有志市民の街頭集会で挨拶

△1(月)メダマ、△7(日)第一学区囲碁クラブ総会、△同日、小中一貫校考える会、△同日、市議団と街宣、△同日、有志市民の街頭集会で挨拶

△1(月)メダマ、△7(日)第一学区囲碁クラブ総会、△同日、小中一貫校考える会、△同日、市議団と街宣、△同日、有志市民の街頭集会で挨拶

### 市議会 6月定例会日程 (予定)

- ※開会時刻は10:00です。
- 6月13日(火) 本会議(開会、提案説明、総括質問等)、予算特別委員会
- 15日(木) 本会議(一般質問)
- 16日(金) 本会議(一般質問) 10時: 共産党市議団(予定)
- 19日(月) 本会議(一般質問)
- 20日(火) 常任委員会(総務)
- 21日(水) 常任委員会(市民文教)
- 22日(木) 常任委員会(厚生)
- 23日(金) 常任委員会(産業建設)
- 29日(木) 予算特別委員会
- 30日(金) 本会議(閉会)

☆請願の締め切りは6月6日(火)午後1時

長谷川剛議員と坂本昌栄議員が傍聴しました。

## 稲生公民館で月2回 子ども食堂を開催

子どもの森食堂実行委員会(代表・佐藤渡)は、稲生町民を対象に13日(土)から子ども食堂を開催しました。

稲生公民館及び集会所を利用し、第2土曜日と第4金曜日の月2回で、午後5時から学習支援と、午後6時から食事と懇談(ボードゲーム・カフェタイム)を予定し、子どもや親の居場所となるよう実施します。

会費は大人300円、子ども無料で、無料食材の提供(庄内農民連よりお米、町民より山菜等)や、町内会からのおたより配布支援、庄内子ども食堂助成金、寄付金及び県・市からの補助金で運営していく予定です。

学習支援には鶴岡工業高等専門学校生徒

が、運営には地元ボランティアスタッフ(現在14人)と医療生協からの支援です。食材の提供やボランティアスタッフ、ご寄附の申し込みは、事務局・坂本昌栄(TEL 90・2882・9403)までご連絡下さい。

防衛ジャーナリスト半田滋(はんだしげる)講演会 5月22日(月)午後2時~4時・こびあ2階ホール・資料代500円 演題「敵基地攻撃と日米一体化」「防衛費倍増は国民負担に」主催実行委員会 共催つるおか・たがわ九条の会他 問い合わせ22-5111 1(鶴岡生協組織部)

# 地域に根を張る人を育てられるか

## 鶴岡型小中一貫教育を考える市民のつどい

「鶴岡型小中一貫教育を考える市民のつどい」が5月7日、藤島地域の東田川文化記念館・明治ホールで開かれ、教師や住民など30人が参加しました。

主催は「小中一貫教育を考える市民の会実行委員会」、共催が県教職員組合、後援が市教育委員会です。

鶴岡市では、藤島中学校改築にあわせて、藤島地域教育振興会議が設置され、新たな「小中一貫校」などが議論されています。

5月12日から住民説明会やアンケート調査が予定され、その前に情報をしっかり共有しようという企画されました。

話題提供は、南波純氏（元藤島中学校教諭・市議会議員）、高橋岳人氏（小学校教諭・

県教職員組合）、太田功氏（渡前・二元市職員）、百瀬裕慶氏（いなば幼稚園園長、藤島児童館指定管理者）の4氏です。

### 財政優遇措置

南波氏は、「なぜ突然、藤島で小中一貫教育が出てきたのか。

藤島中学校と藤島小学校が校舎改築の時期にきており、単独校だと国庫補助が3分の1だが、一貫校なら2分の1になり、財政優遇措置で市が有利になるからだ。」

小学校と中学校の文化が違う

高橋氏は、新庄市の明倫学園と戸沢村の戸沢学園の先生の話を聞いて、「小学校と中学校の文化が違う

なるのか疑問を持った。」

### 特色のある小学校

太田氏は、「以前から渡前小の海浜学校や山羊の飼育、子どもの獅子踊り、クラブ活動など、地域の先生として協力してきた。

2018年に国・県が進める地域学校協働活動に乗らないかとの勧めがあり、コミュニティ・スクールが導入された。東栄小も、獅子踊りなど地域との関わりが強い。

特色のある小学校を一つにするということはどうなのか？。

人口減少は止まるのかを考えるべきだ。」

### 子どもたちの安心

百瀬氏は、「市の幼児教育連絡協議会の会長として、幼稚園・保育園と小学校の連携を提言する立場にある。子どもたちが安心して受け入れてもらえる小学校であってほしい。

幼稚園や保育園では子どもたちの非認知能力（見えない学力）の向上に力を入れているが、それを小学校では受け入れてもらえない課題がある」と話しました。

### 中学校に合わせる

ムダなことが生きてくるという、小学校の文化がどう

南波氏は、「小中連携」と「小中一貫」の違い

について、「小学校と中学校のそれぞれの違いを認め合いながら、違った中で良さを引き出し、情報を交換しながら、子どもたちにより良い方向を模索していくというのが小中連携。

ところが小中一貫は、小・中が同じことを目指す。そもそも発達段階も環境も異なるものを同じにすることに、色々無理がある。

結局、小学校を中学校に合わせることになる」と述べました。

コミュニティは旧合併前の村が単位

参加者から、「今学校の建て替えの話が出ているが、教育は国家100年の計と言われている。

教育の目標は、旧教育基本法で人格の完成をめざすとされ、安倍首相もそれを変えられなかった。

しかし、人格ではなく、外国で活躍できる人材を今、財界が求め、語学や数学、デジタルに力が入れられている。

大事なことは地に根を張ること。

「コミュニティは昭和の合併前の村が単位でなかったか。これまで地域に根

5月11日入札分

- ・市道神楽橋十三軒町線道路改良工事（本町二丁目地内）（入札6業者うち2業者辞退）
- 小野寺建設(株) 33,300,000円 (33,830,000円) 工期~12/28 (落札率98.43%)
- ・北山線表層改良工事（大網地内）（入札3業者うち1業者辞退）
- 斎藤建設(株) 1,980,000円 (2,030,000円) 工期~9/20 (落札率97.54%)

4月27日入札分

- ・赤川河川緑地トイレ整備工事（大宝寺地内）（入札4業者）
- 有賀建設(株) 18,000,000円 (18,140,000円) 工期~8/4 (落札率99.23%)

を張る人を育ててきたが、地域を捨てる教育にならないか、一番の心配だ」との発言がありました。

あきらめていないか？

太田氏は発言の冒頭で、「周りでは、子どもが少なくなるし、小中一貫校はしょうがない。諦めムードや、関心を寄せていない雰囲気を感じる。

今さら何できるの？、市の政策に抵抗できるの？などの声が聞かれる。

あきらめていないか。藤島のこれからの学校のことだぞ。

もっともっと一緒に考えようと、声を出していきたい」と語り、関心を高める取り組みが求められています。



「鶴岡型小中一貫教育を考える市民のつどい」の様子。写真提供：市教育委員会